

中高生とともに差別と闘う

「と、その前に」

吉成タダシ



イツツ・ア・マミワールド

「おはようございます。私は今、紹介があったように県外の大学に通っていて、マキちゃんと同じ看護を学んでいます。」

本当は昨日帰ってくる予定だったんですけど、ちょうど今私は看護の実習に行っていて、それで担当している患者さんが急変して、その関係でバタバタして、今朝一番のJRに乗ることになって、八時にこっちに着いてみたいな感じで帰ってきて。ほんとにバタバタの調子で帰ってきて、しかも言い訳で申し訳ないんですけど、終わってから記録をなんとか仕上げたから寝ようと思ってたんですけど、記録が終わらないし、気がついていたら夜の十二時になってるし、明日は朝四時起きだと思つて、寝たら絶対遅刻すると思つて、変に寝れなくて。だからオールで、JRの中で寝て来た状態なので。朝マック行ってコーヒー飲んで来たんですけど、すごい頭ポツとして。なので結構人の話とかも割とスルーしたり、もしかするとみんなからの質問も、「どういふこと？」みたいな感じで訊くかもしれないけど、それは悪気があってしてるわけじゃないので、申し訳ないですけど、それはちよつとご容赦願います(笑)。私結構おしゃべりなので、たぶんしゃべってしまうんですけど(笑)。」

とまあ、中学時代と変わらない、飾らない素の自分のまんまで、笑顔でフロアの中学生たちをマミワールド

下に引き込んでいきました。

やっぱり仲間づくり

「人権学習でマキちゃんと仲良くなったっていうのは、私が、「私の気持ちには私にしか分からない」というようなことを私が言ったんですよ。」「あ、そんなこと言ったんだ」と思い出したんですけど(笑)。」

元々の私のルーツなんですけど、私の家は八百屋で、お店は地区にあるんです。八百屋のお店は。けど自宅の住所は地区外なんです。

みなさんのところは、運動会とかで地方別対抗リレーとかあります。私の場合、地方別に分かれてやるリレーとか行事とかイベントは、地区に属してるんです。

けど、私は地区の子らと全くなじめてなくて。それは毛嫌いとかじゃなくて、性格がどうしても合わないかったの。人権の集会でこんなこと言うのもどうかと思うんですが、合う合わないって問題で。全然性格も違かったの、ずっと地区に属してるのが嫌。だから小学校時代、私はずっと、「もう別の地方別に行きたい。仲のいい子は地区外の地方別にいるから、そこに行きたい」と思ってたわけなんです。」

仲間づくりの視点が、年々弱まってきたような気がします。同和教育を受け継いで人権教育に取り組んでいる学校では、今も学校教育の根底に仲間づくりの視点を据えているように思えるのですが、大学受験、

教員採用試験と、学力主義に振り回され、関係性を分断されてきたような教員が、果たして徹底した仲間づくりの視点を持ってるかという、疑わしい気もします。

さらに学校現場では、学力向上にむけた取り組みが至上の命題のように叫ばれていて、そのための授業力向上研修も、様々な形で行われています。教師は教えるプロですから、もちろん悪いことではないと思うのですが、やはりここでも、「孤」人主義的な学習法に傾倒しているような気がします。

と、その前に

そんななかで、近年アクティブ・ラーニングという手法が取り沙汰されていきます。チームを組んで、主体的・対話的に深く学び合うための手法です。このような手法の必要性や有効性は、同和教育の世界ではずっと以前から、グループ学習とか班活動といった形で取り組まれ、実証されてきたはずなんです。

ところが、このアクティブ・ラーニングには、私の中で引つかかる点があります。この手法は、組んだチームが機能する前提で考えられています。もしその前提が成立していませんとどうでしょう。ふて寝をしてる子。取りつく島のない子。誰彼なく毒つく子。様々な状況の下で、いろんな思いを抱えて子どもたちは登校してきています。朝ご飯が食べられずに電池切れの子もいま

す。朝っぱらから注意を受け、嫌嫌の悪い子もいます。いろんな子がいるということも前提にして、それでもチームが成立するならいいのですが、もしそうでなければ……。

チームとして成立するには、その根底に仲間づくりの視点が絶対的に必要なんです。でもアクティブ・ラーニングでは、「すでに仲間づくりはできている」という前提で提起されているように思えるのです。つまり、学校現場のリアリティが感じられないのです。「授業は成立するもの」という当たり前の前提自体を、しっかりと見つめ直したうえで取り組む必要があるのではないかと思うのです。

学校のことばかりを言ってきましたが、地区、地区外を問わず、現在全国各地の子とも会活動はどうでしょうか。少子化により活動ができない。文化の違いや趣味の多様化によって子どもが集まらない。そもそも親同士のつながりが希薄で、子ども会活動への協力が望めない。そんなことはないでしょうか。

そのうえ地区においては、差別という大きな問題があるため、地域の仲間づくりが機能しなくなっているように感じます。それも法切れを境にして、極端に。東日本大震災のとき、あれほど「故郷、家族、絆」と言っていたのにもかかわらず……。

マミワールドはこのあと、自身の家族の生き様へと進んでいきます。(次回「お父さん大好きっ子」)